

2-10 天体写真展を企画するには？

美しい天体写真は、多くの人の目を引き、宇宙への興味を深める第一歩と言えます。公共施設など、さまざまな場所で天体写真展を開催することを考えてみましょう。

方法その1 写真家を探す

国内外にプロ・アマの天体写真家はたくさんいらっしゃいます。まずは地元で活動されている方を探してみたいかがでしょう。交渉次第で作品を展示することに積極的に協力して下さることも少なくありません。

会場として公共施設を予約できる場合には、地元市区町村の広報紙などに作品募集の案内を出して、市民コレクション展として実施できることもあります。また、天文関連施設であれば、施設側にとっても写真展をきっかけに写真家の方々との接点生まれ、新しい協力関係や新しいコラボレーションのあり方が見つかることも多く、新しい来館者層を開拓することにつながるようです。

展示のために写真を借りる際は、プリント写真を借用するのか、あるいはデジタルデータでのやりとりなのか、費用等の制約に応じた形態の相談や、謝金の有無などについての確認も重要です。

街角写真展の例。地上の天文台や宇宙望遠鏡が撮影した珠玉の天体画像コレクションを各地で展示する世界の主要企画 From Earth To The Universe (FETTU) の屋外での展示例(2008年リバプール)です。展示物制作用の巨大画像が用意されています。



病院のロビーでの天体写真展の実施例。入院している方など、星空が身近でない方などにとって、天体写真は大きな癒しとなり、また宇宙を通してさまざまなことを伝えられる、よいきっかけとなるようです。

方法その2 公開天文台の天体写真を活用する

国立天文台のような研究機関や公開天文台では、ウェブサイトで天体写真を公開しています。教育活動目的の掲示物であれば利用を許可されるところが少なくありません。多くの場合、プリントサイズが小さめであれば、プリントアウトしてそのまま掲示物にできる解像度の画像をダウンロードできます。利用にあたっては、ウェブサイト内に記載されている著作物の利用規定や著作権者、注意事項などをよく読んで理解し、指定どおりのクレジット表記をするなどの配慮に努めましょう。

また、展示サイズが大きく高解像度画像が必要な場合には、直接、各施設に相談してみましょう。

天体写真展を各地で実施するには？

すでに天文同好会などで天体写真展を開催されている場合、その作品をより広く紹介するためにどこかよい会場を探したい、と思ったことはありませんか。さまざまな場所で開催するヒントをご紹介します。

方法その1 市民ギャラリーなどの活用

地域には公民館や市役所などのギャラリーを無料で提供している場所が多くあります。公認イベントとして、広く市民を対象にした天体写真展を開催するのもよいでしょう。その際には、無人で開催することを前提に考えた作品保護などへの配慮、あるいはプリントに傷が付いても問題ないという割り切りも必要です。

方法その2 公共性の高い場所、民間の施設への呼びかけ

会場を申し込んで実施するほかに、多くの人が訪れる場所への働きかけも有効です。例えば、ある科学館で行っている天体写真展を見て、カーディーラーから開催の依頼が来たこともあります。あるいは銀行や病院のロビーなど、さまざまな場所で天体写真展を開催している事例もあります。

ミニイベントとして、多くの人が集まる場所や、なかなか実際に星空を見上げられない環境にある場所など、思わぬ場所を天体写真で飾ってみる可能性を考えてみるのも有効です。さまざまな“ツテ”に頼る方法や、フリーペーパーやコミュニティー誌で開催地を募集するのも、ひとつの方法でしょう。